

「新しい東北」官民連携推進協議会

令和2年度  
宮城県意見交換会(第2回)

事務局提出資料

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

2020年9月1日

# ● 目次

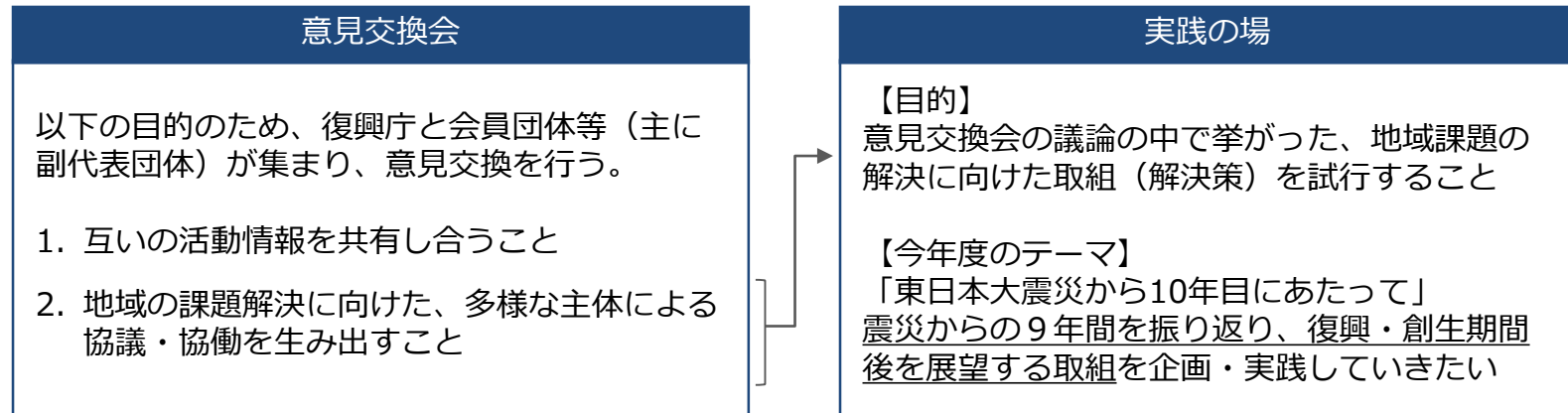
---

1. 意見交換会の概要
2. 第1回意見交換会・事後調整の結果
3. 第2回意見交換会での検討事項
  - (1) 企画趣旨
  - (2) 当日プログラム
  - (3) 参加者等募集方法
  - (4) 開催形式
  - (5) 開催後の継続・発展の案
  - (6) 今後の協議会への期待・要望
4. 今後のスケジュール

# ● 1. 意見交換会の概要 — 今年度の方向性

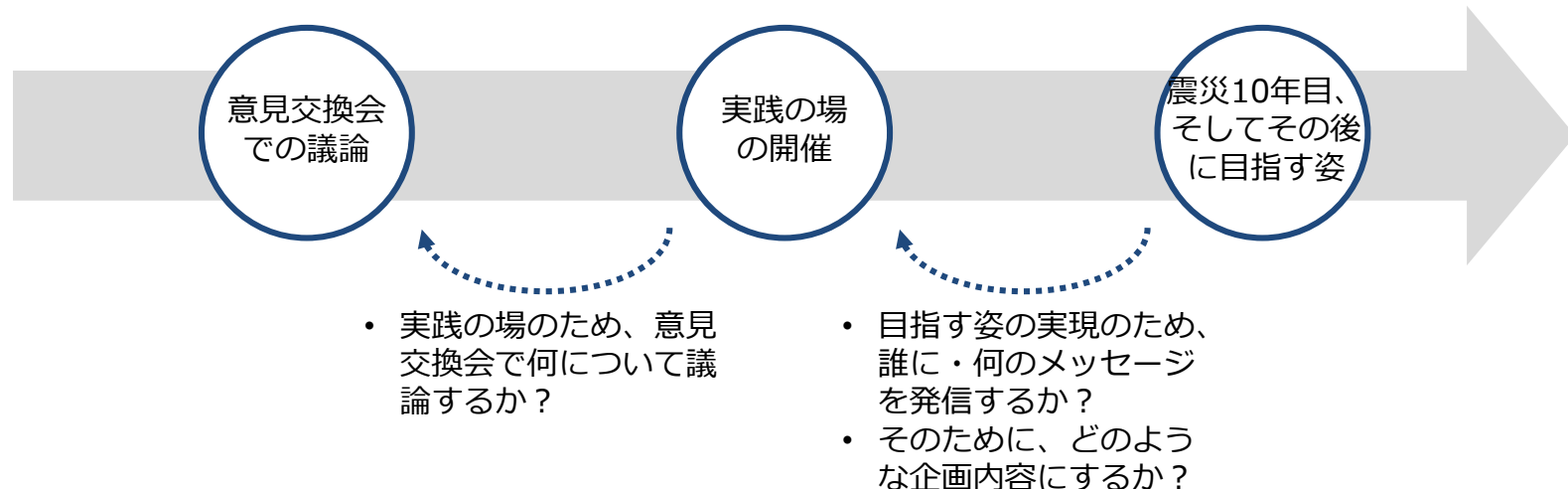
今年度は東日本大震災から10年目、そしてその後に目指す姿を念頭に置き、実践の場の企画や、そのための意見交換会での議論を組み立てていきます。

## ■ 意見交換会、実践の場とは



## ■ 今年度の方向性

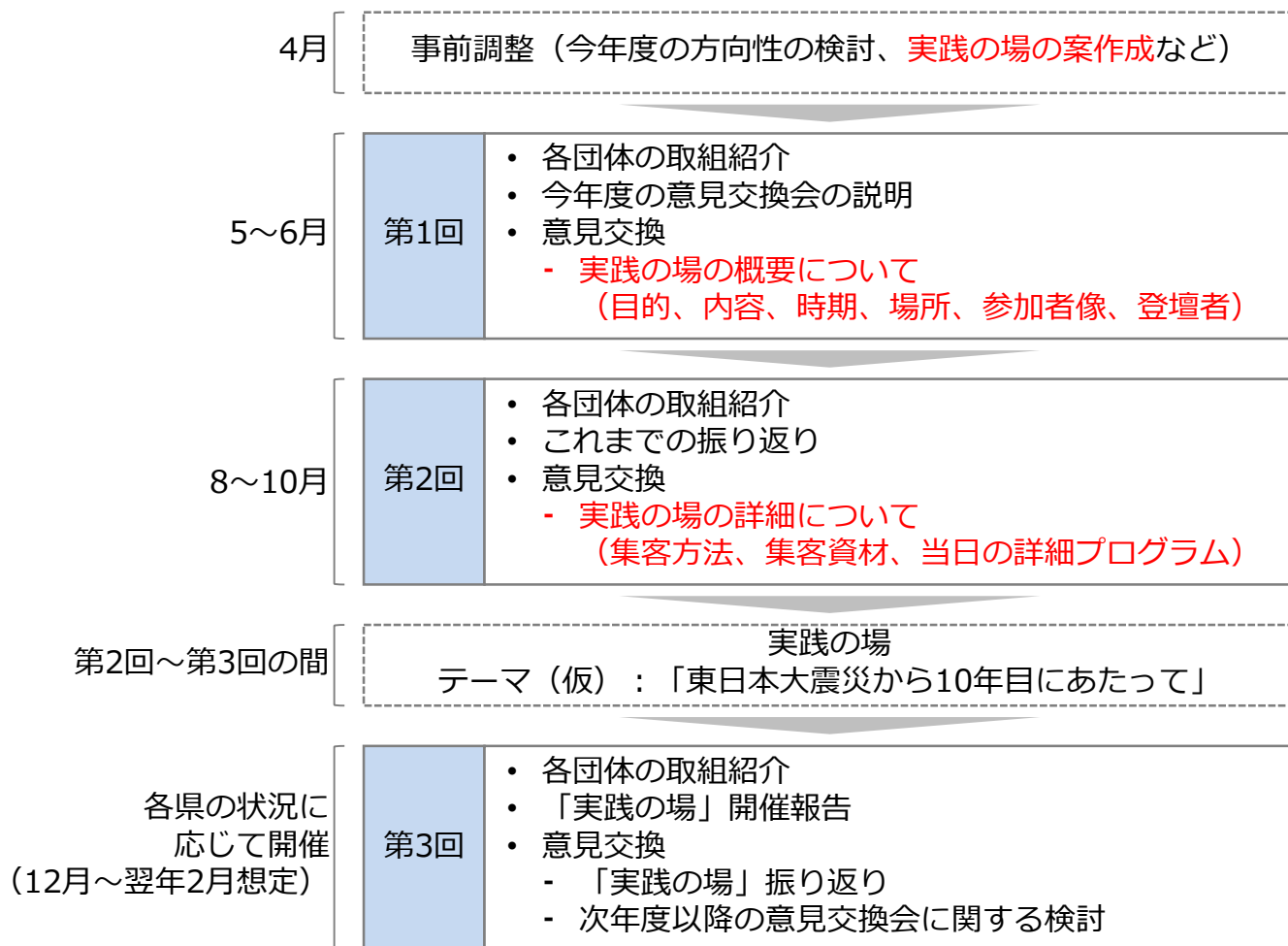
東日本大震災から10年目、そしてその後に目指す姿を念頭に置き、実践の場の企画や意見交換会での議論を組み立てる



# ● 1. 意見交換会の概要 — 今年度の進め方

昨年度同様、全3回の意見交換会と実践の場を開催予定です。

ただし実践の場を秋以降の早い時期に開催できるよう、昨年度より前倒し、第1回には概要を、第2回には詳細を決定する段取りで進めています。



\* 赤字部分は令和元年度からの変更箇所

## ● 2. 第1回意見交換会・事後調整の結果

第1回意見交換会および事後調整時に挙げたご意見をもとに、以下の通り企画へ反映いたしました。

	第1回および事後調整時に挙げたご意見	企画への反映方法（案）
企画趣旨 (目的)	<ul style="list-style-type: none"><li>• 取組の振り返り・総括だけでなく、未来志向で発信することが重要</li><li>• 現在進行形の復興活動や今後の災害対応等に資するノウハウ・将来像を検討すべき</li><li>• 過去に乗り越えた課題だけでなく、残っている課題や新たに発生した課題にも着目するとよい</li></ul>	左記意見を全て盛り込む  <span>詳細はP. 5</span>
当日 プログラム	<ul style="list-style-type: none"><li>• テーマは「被災者支援」「産業復興支援」「まちづくり」でよい</li><li>• 「連携」を切り口とするよりも、各テーマの中で議論しやすい題材に焦点を絞って「連携」を検討する方がよい</li></ul>	左記意見を全て盛り込む  <span>詳細はP.6-7</span>
参加者等	<ul style="list-style-type: none"><li>• 基調講演登壇者とディスカッションメンバーは意見交換会出席者からも推薦する</li><li>• ディスカッションメンバーは男女比も考慮してほしい</li></ul>	【基調講演登壇者とディスカッションメンバー】 意見交換会出席者の推薦と宮城復興局の案を併せて検討し、男女比も考慮した上で決定する  【その他傍聴者】 広く一般募集する  <span>詳細はP.8</span>

\* 「ディスカッションメンバー」＝グループワークの参加者・司会者およびパネルディスカッションのパネラー・コーディネーター（詳細は後述）

### ● 3. 第2回意見交換会での検討事項 (1) 企画趣旨

ご意見を踏まえ、タイトルと企画趣旨は【未来志向でノウハウ・将来像を検討する】【先駆的な取組事例を軸とする】という点を修正・追記いたしました。タイトルは案1・案2のどちらがよいか、企画趣旨は追加の改善点がないかご意見ください。

タイトル	<p>【案1】 みやぎ復興フォーラム ～復興支援から生まれたつながりとわたしたちの未来～</p> <p>【案2】 みやぎ復興 官民連携フォーラム ～東日本大震災10年目の今、 復興をきっかけに生まれた『連携』の姿とその将来像を考える～</p>
------	---

「フォーラム」（＝意見交換&発信の場）と「未来/将来像」（＝未来志向）の追加

【修正前】  
「東日本大震災における「連携」の果たした役割について（仮称）」

企画趣旨	<p>当該イベントでは、東日本大震災から今までに実施した官民連携による先駆的な取組事例に焦点を当て、連携先のNPOや民間企業などともに、振り返り・総括を行うとともに、現在進行形の復興活動や今後の災害対応等に資するノウハウ・将来像を検討することにより、今後なお一層の連携強化に寄与することが主目的である。</p> <p>また、議論の結果を全国にも発信することにより、官民連携の多様な取組を通じて蓄積したノウハウ（特に宮城県内で独自に発展したもの）が他地域での地方創生の取組に応用されること、および宮城県が「連携」を通じて復興・創生に取り組んでいる地域として全国から認知されることも第二の目的とする。</p>
------	--

「連携」を切り口とするのではなく、先駆的な取組事例を軸とする記載に変更

【修正前】  
多様な取組事例について「連携」を切り口にして～振り返り・総括を行う

ノウハウ・将来像を検討する旨を追加

### ● 3. 第2回意見交換会での検討事項 (2) 当日プログラム — 全体

当日プログラムも同様に、【未来志向でノウハウ・将来像を検討する】【先駆的な取組事例を軸とする】という点を修正・追記いたしました。対案や追加の改善点がないかご意見ください。

時間	プログラム	内容
14:00~14:05	5分 開会挨拶	事務局（PwC）より開会の挨拶、協議会の説明、企画趣旨、プログラムを説明。
14:05~14:45	40分 基調講演 (QA含む)	分野を特定せず広く全般的に、宮城県内における震災から今までの復興状況・成果と、その復興を支えた「連携」の取組内容・役割を振り返っていただく。その際、取組の具体的な内容よりも、「連携」によってどのような変化が生まれたのかに着目し、復興のために「連携」が果たした役割や、現在進行形または今後起こりうる課題への応用策等についても言及いただく。
14:45~14:55	10分 休憩・移動	各自休憩。産業復興支援は7階会場へ移動。
14:55~16:40	1時間 45分 分科会	「被災者支援」「産業復興支援」「まちづくり」の3分野に分かれ、各分野における官民連携の先駆的な取組事例を題材とし、取組の振り返り、現在進行形の復興活動や今後の災害対応等に資する「連携」のノウハウと、将来像と将来像実現に必要な「連携」の姿をまとめる。
16:40~16:50	10分 休憩・移動	各自休憩。産業復興支援は1階会場へ移動。発表者は発表内容をまとめる。
16:50~17:20	30分 総括	分科会の結果をそれぞれ全体に向けて共有し、質疑応答を行う。この結果を踏まえて、イベント全体の代表者から総評と今後に向けたメッセージを話す。
17:20~17:25	5分 閉会挨拶	事務局（PwC）より閉会の挨拶を行う。参加者等はアンケートを記入し、退場する。

基調講演の登壇者が決定  
■ 東北大学 理事・副学長 原信義様

現在進行形の復興活動や今後の災害対応等に資する「連携」のノウハウ・将来像を検討する旨を追加

「連携」を切り口とするのではなく、先駆的な取組事例を軸とする記載に変更  
(詳細は次ページにてご説明)

### ● 3. 第2回意見交換会での検討事項 (2) 当日プログラム — 分科会

分科会については、これまでに頂いたご意見・ご推薦をもとにディスカッションメンバーを決定し、討議内容を詳細化しました。ご不明点や追加で盛り込むべき要素などあればご意見ください。

資料1-2（分科会の概要）にてご説明いたします



### ● 3. 第2回意見交換会での検討事項 (3) 参加者等募集方法

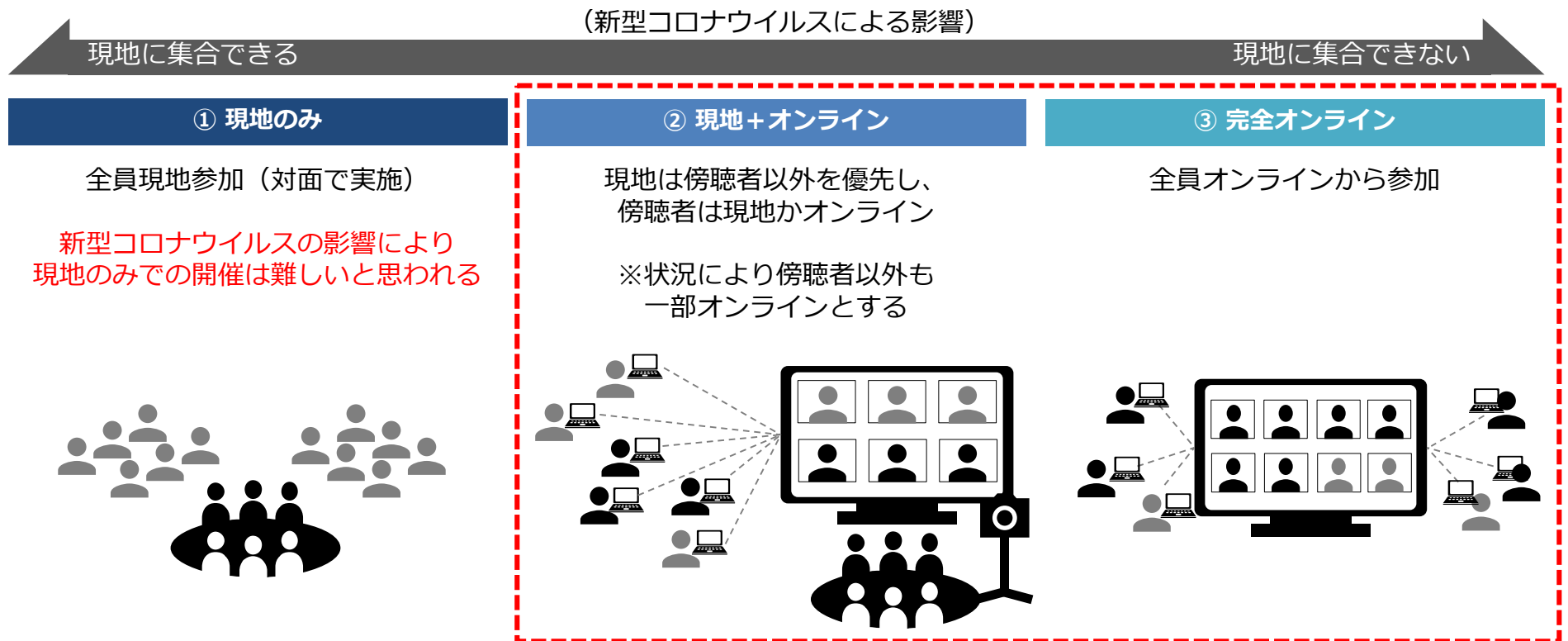
参加者等のうち、傍聴者は協議会ポータルサイトやマスメディア（新聞等）を用いて募集予定です。今回の企画趣旨を踏まえて、どのような方向けに、どのような方法で募集するとよいかご意見ください。

分類	分野ごとの呼称			募集方法
	被災者支援 (グループワーク)	産業復興支援 パネル ディスカッション	まちづくり (グループワーク)	
基調講演の登壇者	—			宮城復興局の案や意見交換会出席者の推薦をもとに決定済み
議事進行をする方	司会者	コーディネーター	司会者	
メインで議論する方	参加者	パネラー	参加者	
メインの方に対して 質問・意見する方	—	参加者	オブザーバー	登壇者の関係者・連携先団体を中心に直接参加を依頼予定
上記以外の 一般傍聴者	傍聴者	傍聴者	傍聴者	協議会ポータルサイトやマスメディア（新聞等）を用いて、関心のある人を広く募集予定

**「傍聴者」はどんな方に、何を使って、どのように周知・募集する方法がよいでしょうか？**

### ● 3. 第2回意見交換会での検討事項 (4) 開催形式

開催形式は新型コロナウイルスの影響度合いに応じて3パターンを検討しておりました。収束の目途が立っていないことから、9月末時点の国・県の方針に従い、②または③で決定いたします。



運営や集客の変更に1か月以上の時間を確保できるよう、9月末時点で、新型コロナウイルス対策に関する国・宮城県の方針を踏まえて②または③の判断を行う

※その後、新型コロナウイルスの感染拡大等の状況に応じて②→③は可、③→②は不可とする

### ● 3. 第2回意見交換会での検討事項 (5) 開催後の継続・発展の案

今回の実践の場を通じて、参加者等や地域にどのような影響・変化を与えられるでしょうか？  
また、より良い取組とするために必要な要素もあればご意見ください。

今回の実践の場を通じて  
参加者等や地域に対して  
どのような影響・変化を与えられるか？

- ✓ 参加者等がどのような気づきを得られるか
- ✓ 参加者等のどのような行動に繋がられるか
- ✓ どのような連携・取組を創出できるか
- ✓ 上記の結果、地域にはどのような影響を与えられるか

時間等の制約により  
今回の実践の場には盛り込めていないが、  
取組の改善に必要な要素は他にないか？  
(どうすれば継続・発展できるか？)

- ✓ 参加者等への訴求力をより高めるために…
- ✓ 当日に参加者等の意見をより引き出すために…
- ✓ 当日出た意見を確実にアクションに繋げるために…
- ✓ メインで議論する方と傍聴者の両者にとって有意義な企画とするために…

## ● 3. 第2回意見交換会での検討事項 (6) 今後の協議会への期待・要望

復興庁内部では、次年度以降（第2期復興・創生期間）の協議会は、「現在進行形の課題の解決に引き続き取り組む」「蓄積した知見・ノウハウの普及展開を図る」の2点が注力ポイントになると考えています。

### ■ 次年度以降の協議会に関する考え方

<p>「復興・創生期間」後における東日本大震災からの復興の基本方針 (令和元年12月20日閣議決定)</p>	<p>【「新しい東北」の創造 - 今後の課題 - 】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>蓄積したノウハウの普及・展開を図り、被災地において地域課題に取り組む主体が、地方創生の施策の活用等により持続可能な活動を行うことができる環境整備が重要である</li> </ul>	<p>現在進行形の課題の解決に引き続き取り組む</p>
<p>復興庁設置法等の一部を改正する法律 (令和2年法律第46号) [附則第三条]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>復興の進捗状況が被災地域ごとに異なること等に鑑み、復興が進展している地域における取組に係る情報を復興の途上にある地域へ提供するなど、東日本大震災からの復興に関する施策の実施を通じて得られた行政の内外の知見を活用するものとする</li> </ul>	
<p>令和3年度以降の復興の取組について (令和2年7月17日復興推進会議決定) [今後の取組]</p>	<p>【地震・津波被災地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>心のケア等の被災者支援を始めとする残された事業に全力を挙げて取り組む～とともに、地方創生の施策等を活用することにより～持続可能で活力ある地域社会を創り上げる取組を進める</li> </ul> <p>【原子力災害被災地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>原子力災害被災地域の復興・再生には中長期的な対応が必要であり、～地震・津波被災地域と共通する事項のほか、第2期復興・創生期間においても引き続き国が前面に立って、本格的な復興・再生に取り組む</li> </ul>	<p>※地方創生との連携も強化</p> <p>蓄積した知見・ノウハウの普及展開を図る</p>
<p>令和3年度復興庁予算概算要求に係る基本的考え方 (令和2年7月21日復興庁記者発表)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災の記憶と教訓を後世へ継承するとともに、新しい東北の創造に向けた取組を含めたこれまで10年間の復興庁の取組を通じて蓄積されたノウハウについて情報を発信し、政府部内を含め被災地内外への普及展開を推進する</li> </ul>	

### ● 3. 第2回意見交換会での検討事項 (6) 今後の協議会への期待・要望

前述の注力ポイント2点への対応案および協議会全体のあり方に関するアイデアや期待・要望などがあればお聞かせください。

#### 注力ポイント

#### 主な論点

#### 協議会のあり方に関する主な論点

現在進行形の課題の解決に引き続き取り組む

- どの課題に注力するのがよいか？  
(地域/目的/領域/主体…)
- どのように解決に向けて取り組むとよいか？
- そのために協議会はどうあるべきか？

蓄積した知見・ノウハウの普及展開を図る

- どのような知見・ノウハウがあるか？
- どこ・誰に普及展開すべきか？
- どのように普及展開するとよいか？
- そのために協議会はどうあるべきか？

目的・役割

- 注力ポイントを踏まえて、現行の目的・役割をどのように見直すとよいか？

事業内容

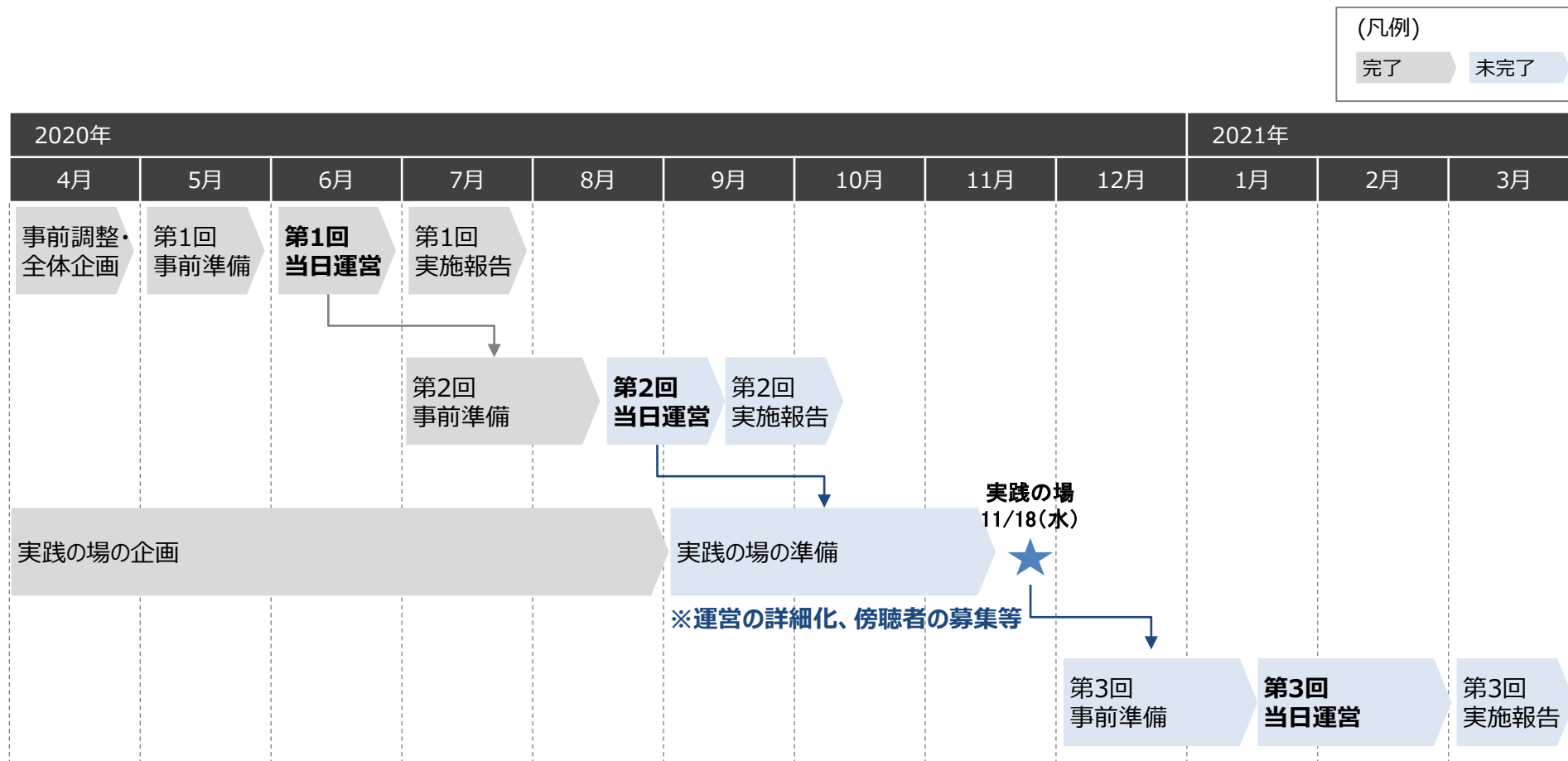
- 注力ポイントを踏まえて、現行の事業のうちどこに重点を置くか？
- 新規に追加する/廃止するとよい事業はあるか？
- 特に、意見交換会はどうあるべきか？

会員

- 注力ポイントを踏まえて、会員の要件の見直しや追加での勧誘は必要か？
- 注力ポイントに対して、誰と・どのような体制で事業を進めるとよいか？

## ● 4. 今後のスケジュール

意見交換会および実践の場は、以下のスケジュールで推進予定でございます。



※意見交換の進捗状況や日程調整等により、変更となる可能性があります。ご了承ください。